令和3年度第4回白井市市民活動推進委員会（全体会）会議録

1. 開催日時 令和3年11月12日（金）午後2時00分～4時00分
2. 開催場所 白井市役所 東庁舎1階 会議室101
3. 出席者 関口宏聡委員、清水洋行委員、近藤健司委員、湯浅章吾委員、
大田茂子委員、迫田妙子委員、篠崎慶子委員（名簿順）
4. 欠席者 長島悟委員、川鍋正治委員、亀川香委員、黒木弘司委員（名簿順）
5. 事務局 松岡課長、中原主査、高橋主事補
しろい市民まちづくりサポートセンター 宮本センター長
6. 傍聴者 2名
7. 議 事
  - （1）令和3年度白井市市民団体活動支援補助金交付団体への中間ヒアリング結果について
  - （2）しろい市民まちづくりサポートセンター令和2年度事業実績、令和3年度上半期事業報告、令和3年度下半期事業計画について白井市市民団体活動支援補助金成果報告会について
  - （3）with コロナからアフターコロナへ
～市民活動再始動と新たな活動の可能性について～

8. 会議概要

- （1）令和3年度白井市市民団体活動支援補助金交付団体への中間ヒアリング結果について

〔事務局説明〕

〔事務局〕 資料の1をお出してください。

前回の会議で今年度は全部で4団体採択されましたということで御報告しましたけれども、資料1では3団体の報告内容となっております。理由は、グリーンレンジャーという国道464号線と南山の調整池の葛等を除去する作業をするという団体さんだったのですけれども、最終的には、県とアダプトプログラムの合意が取れなかったということで申請を取下げで、既に返金をいただいておりますので、最初に御報告をいたします。

（グリーンレンジャーについては、条件付き採択となっていました。【条件】千葉県河川海岸アダプトプログラムの合意またはそれにかわる活動許可の確認ができた場合のみ補助対象とする。）

そうしましたら、資料の1番を御覧ください。

3団体の中間ヒアリングの報告となります。1団体ずつ行きたいと思います。資料の一番左の列を縦に見ていってください。

まず団体名、介護・認知症の家族と歩む会・白井となっております。活動発展型で採択

額は10万円です。補助事業の進捗事業について、計画どおりに事業は進んでいるかという項目ですけれども、二重丸、丸、三角で表示しておりますけれども、二重丸がよくできている、丸がおおむねできている、三角が一部できていないところがあるという3段階で評価をさせていただいております。介護・認知症の家族と歩む会・白井については、進捗については、丸という形にしております。

記載のとおりなのですが、ワークショップ、講座等はほぼ計画どおり実施しておりますが、コロナ禍により、参加者が極端に少ないという御報告がありました。

交流会・相談会が進んでいないのですけれども、交流会の代わりに電話相談や訪問相談が増えたということで、団体さんなりにいろいろ考えて、別の手立てで活動しているということがうかがえました。

下期については、「徘徊」をテーマに講座を開催予定ということで、広報掲載、はがき、チラシと複数の手段で情報発信していくということで、参加者を確保しようという意思が感じられました。

続いて、補助金の活用状況について計画どおり活用しているかにつきましては、講座・ワークショップ等は計画どおり進んでおり、はがき、切手、通信費やチラシ等の消耗品、印刷費に活用しているということです。

下半期については、告知案内にチラシを同封するため、通信費が増えそうだということで、こちらについては、当初よりも通信費が増えるので、事業計画の変更等が必要かという問い合わせがありましたけれども、もともと使うものの内訳が若干変わる程度ということで、申請は特に不要ということで、通信費を使って告知を頑張ってくださいという形で対応しました。

続いて、裏面に行ってください、引き続き一番左の列です。審査の際にあったコメントに対して、どういった対応をしていますかということで。まず審査コメント①番に対して、認知症に対して、当事者目線で取り組み、着実に活動を継続されていることを評価しますといういい評価をしたところなのですけれども、今後についても、当事者目線の活動「分かってください、私は認知症です。」ということで、代表者さんが認知症を患っているようなのですけれども、自分の実体験を基に進めていくということをおっしゃっていました。

②番の審査コメントについては、会員の区分が分かりづらいため、外部に分かる組織体制づくりに努めてくださいということに対して回答を頂いたのですけれども、分かりやすい組織に努めることの対応になっているかは分からないのですけれども、(仮称)地域パートナーの発掘、増員を目指しますということで、団体なりに新しい人材を探すということで報告をいただいています。

また、団体活動の活性化と自立の課題についてということで、活動継続のために、仮称ですけれども、地域パートナーの発掘。それと活動費確保のため、フリーマーケットなど

を展開していくというようなことをおっしゃっていました。

今後の展望については、（仮称）地域パートナーを確保し、市民の交流の場、これも仮称ですけれども、えがおの広場をスタートさせる。また、市民同士が喜び、不安、悩みなどを気軽に話し合える「地域の居間づくり」を展開するということをおっしゃっていました。

これは個人的な感想ですけれども、えがおの広場とか、地域の居間づくりとか、ネーミングセンスがいいのではないかなと思って、支援を続けていければと思います。

そうしましたら、次は、しろいワクワクひろばになります。採択額8万4,000円になります。こちらについては、農園事業については、計画どおり種まき、田植え、収穫等を行っておりまして、農業ボランティアさんの協力をいただいているということが大きいそうです。

子ども食堂については、コロナ禍で活動ができないということで、子ども食堂の代わりに手作り弁当や食材、お菓子の配布に変更しているということです。

補助金の活用状況につきましては、子ども農園事業は計画どおり進行、ただし、子ども食堂事業については、事業がコロナでできないため、食材費の活用ができていないということで、評価としましては、資金に関しては三角としましたけれども、これは団体の問題ではなくて、コロナの問題ということで御配慮いただければと思います。

裏面に行きまして、このまま真ん中の列です。

地域に根ざした多世代多文化のすばらしい活動であるということに対しまして、参加者の内訳をいろいろ親子で来ているとか、母と子供、親子4代で来られたとか、少し参加者の内訳を意識してデータを取っているようです。

また、周知方法につきましては、チラシの配布とか学校への掲示等、そのほか、らーばんねっとというローカルTVで先週、取り上げられまして、しろいナウという番組で15分程度放送されておりました。

あと、団体活動の活性化と自立の課題については、今回この補助金、発展型で2回目ですので、来年、最終年度ということ意識していきまして、民間助成金等の活用を検討していくということをおっしゃっていました。

今後の展望については、同事業を継続ということで考えているようです。

また表面へ戻っていただいて、最後、右側です。白井健康元気村になります。こちらは採択額25万円です。

事業が計画どおり進んでいるかにつきましては、7月、9月、健康教室を実施しましたけれども、8月の健康教室は、下期に延期したとなっております。ここは、中止ではなくて延期ということで、どちらかという、やる気を感じるというか、用意したメニューは全てこなそうという意思が感じられました。後半ちょっとスケジュールがタイトになってきますけれども、8月分は延期となっております。

補助金の活用については、計画どおり執行していきまして、下期も予定どおり活用できるということで、評価としては二重丸にしております。

裏面に行きまして、右側です。

こちらの団体は、最初、DVDで資料を配布するという計画でしたけれども、こちらの審査会のほうで条件を付けまして、DVDではなく、冊子に変更したらどうかということで提案をしまして、冊子に変更して配布しているという報告をいただいております。

団体の活動の活性化、自立については、今までどおり児童公園の清掃で年間33万円という費用を受けるということになっております。

次年度以降については、健康教室、終活教室を計画していきまして、児童公園の清掃等も引き続きやるということで伺っております。

以上、報告になります。よろしくお願ひします。

[委員長] ありがとうございます。

事務局のほうで分かる点はお答えいただけると思うので、皆さんのほうから何か御質問とか、あるいは、最終的な報告が任期をまたいで次の方々になってしまうので、皆さんのほうから何かアドバイスとか、こうやったほうがいいのかというのがあれば、お聞きできればと思います。

では、まず先に〇〇さん、どうぞ。

[委員] 〇〇です。2つあります。

最初の介護・認知症の家族と歩む会・白井についてなのですが、ここの団体さん、すごくSNSとかで発信しているのをよく目にするのですが、それを見ていると、活動が白井市内に限ってなくて、千葉県内とか柏とか、いろいろなところでやっていらっしゃるように思うんです。それがこのタイトルだと、白井とうたっているんで、その活動のすみ分けというか、それが補助金とともに、はっきりしているのかなというのがちょっと、確認というか、疑問というか、それが1つです。

それから、2つ目のしろいワクワクひろばについての表面3段目の補助金活用状態というところなのですが、三角が付いています。コロナ禍によるというただし書きが書いてあるのですが、コロナ禍によるのは、ほかの団体さんでも全く同じことなので、市民活動支援課でこういう三角が付いていることに対して、何かアドバイスというか、支援というか、そういうのを何かやったのかなというのをお聞きしたいと思います。

以上です。

[委員長] では、お願ひします。

[事務局] まず介護・認知症の家族と歩む会・白井ということなのですけれども、確かに活動範囲が、千葉県内広く活動されていきまして。多分、中心は柏のほうのはずです。白井市の補助金を得るに当たって、団体名に、ぼち、白井となっているのですけれども、この市民だけ対象、柏市民だけ対象というふうに明確に分かれているかということ、そこは

分かれていない可能性はあります。

ただ、例えば柏の方が多かったとしても、白井市民の方にも有益な情報を一緒に聞く機会を与えていただいているのであれば、ぼっさり対象としないというふうな考え方ではないということで御理解いただければと思います。

2点目のしろいワクワクひろばの三角。これも私の主観で付けてしまっているのですが、子ども食堂事業は、完全にお子さんたちに調理した食事を出すような事業なので、コロナ禍では、食事を食堂として提供することができないということだったので、そこは世の中が、多分、全国的に子ども食堂というのはなかなかやりづらい状況でありましたので、結局、ほかに使い道がないというのですか、ほかの団体さんは、講習会をやるために、参加者が減ってしてしまっただとしても、周知はするとか、チラシは作るとか、効率的には下がるかもしれないけれども、実施をする。子ども食堂については、完全に子ども食堂の事業自体が止まってしまうので、そこに使う材料費というのも使い道がないということで、仕方ないけれども、付け方としては、一部できていないところがあるというか、使い道がないということで三角にさせていただきました。

以上です。

[委員長] ありがとうございます。

では、〇〇さん、いかがですか。

[委員] 1か所、白井元気村の2段目の3点目、健康教室の後、就活の就が終わるという字だと思います。以上です。

[事務局] そのとおりです。大変失礼しました。

[委員長] ほかの方、いかがでしょうか。

では、〇〇さん、どうぞ。

[委員] 介護の会と、それからワクワクひろばさんは、コロナに応じて当初の活動とは違う形で対応しているという、電話とか、配布とかという対応を変えたということがすごく積極的に評価できるなと思いました。

2つあるのですけれども、ワクワクひろばさん、手作り弁当とか食材配布とかしていて、そこに何か食材費を使えないのかなというところで、これが食材費は使っているけれども、まだすごく余っているということなのか。使えるのであれば、そういうところに積極的に使っていくといいのではないかなというふうに思います。つながり続けるということがすごく大事だと思うので、何かそういうところに使っただけならなというふうに思います。

それからもう1つ、元気村さんなのですけれども、結構審査では厳しい意見が、厳し目の評価だったと思うのですけれども、そのポイントの1つが、会員の活動にとどまっているのではないかとということで。今回、冊子を配布するというので、それを通じて、前よりいろいろな市民を巻き込んでいくということが主眼だったと思うのですけれども、

ここはできているのかどうかというところをもし分かれば教えていただきたいと思いません。

以上です。

[委員長] では、事務局お願いします。

[事務局] まず会員だけの活動にとどまっているのではないかという御質問ですが、基本的には、会員さんがメインではあるのですが、会員から周りの御友人というのですか、そちらのほうに声をかけるような活動をしているというような形では聞いていまして。参加者だけではなくて、参加者の周りに配れる御友人等がいれば、資料を提供というようなことは聞いておりますけれども、それがどれぐらいの人数に広がっているかという実数については、すみません、把握できておりません。

以上です。

[委員長] ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

では、〇〇さん、どうぞ。

[委員] 残念ながら取り下げられたグリーンレンジャーさんのその後をお伺いしたいなと思います。

[委員長] 分かれば、お願いします。

[事務局] 今回、中間ヒアリングということだったので、グリーンレンジャーさんについては、県の印旛土木とのやり取りのメール以降、御連絡は取っていない状態になります。

以上です。

[委員長] ありがとうございます。

では、お願いします。

[委員] 〇〇でございます。これ、評価の丸ですとか三角の関係で、担当者の方の主観で出したというお話なのですけれども、やはりこういった評価については、数字で表せるようなところがあれば、例えば予算であれば、100万円のうち半分で50万だから、本当に今、50万使っているから二重丸だとか、数字で表せるものがあるのであれば、数字を示していただいて評価したほうが、対外的にも、いわゆる客観的な評価にさせていただいたほうがいいと思いますので。今回は、中間ということですのでけれども、最終的には、その辺の数字も示していただければありがたいと思います。これは、答えは結構です。要望です。

[委員長] ありがとうございます。

ほかはよろしいでしょうか。よろしいですかね。

ありがとうございました。私からも、コロナがどうなるかというのは分からないところもありますので、使途流用といいますか、科目間変更、食材費ももちろん基本的には計画どおり使うというのが原則だとは思っておりますけれども、だからといって余らせてしまっ

ても、有効に活用できるようであれば、事務局さんと相談していただいて、より効果的な使い道があるのであれば、そちらでぜひ御活用いただければなとは思っております。ありがとうございました。

そうしましたら、すみません、若干、私のあれが悪くて10分押しぐらいになってしまっているのですけれども。

(2) しろい市民まちづくりサポートセンター令和2年度事業実績、令和3年度上半期事業報告、令和3年度下半期事業計画について白井市市民団体活動支援補助金成果報告会について

続きましては、今日、センター長の〇〇さんにもお越しいただいていますが、しろい市民まちづくりサポートセンター、まちサポの令和2年度、昨年度の事業実績報告と、あとは今年度、令和3年度の上半期の事業報告、そして、令和3年度の下半期の事業報告ということで盛りだくさんなのですが、それぞれ、まずは昨年度の事業報告、次に令和3年度、今年の上半期の事業報告、そして最後に、今年下半期の事業報告ということで、3つのパートに分けてお願いしたいと思います。

では、早速ですけれども、まず昨年度の事業報告について、〇〇さん、お願いいたします。

[事務局] 〇〇です。よろしく申し上げます。

お手元の資料2、令和2年度しろい市民まちづくりサポートセンター事業報告書。

1ページに、設置目的・役割がございます。それから2ページに、まちサポの7つの機能、それから施設の概要がございます。皆さん既に御承知と思われまますので、この部分の説明は省かせていただきます。

3ページに令和2年度事業報告概要ということが示してありますけれども、この一つ一つについて、これから御説明しますので、このページは省かせていただきます。

4ページ、各機能の状況というところから行きます。

拠点機能の利用者数の推移ということですが、全体利用人数が平成31年度、1万6,000人余りあったのですけれども、2年度は69%減少して、5,000人余りというふうに減少しております。会議室・多目的スペース・共有スペース・作業スペース、それらの利用についても、それぞれ御覧いただくような減少となりました。

この状況について補足する意味で、下に月別コロナの新規感染者数、これのグラフを入れております。こちらで、申し訳ありません、このグラフの上の4月7日から5月31日と書いてある部分、これ、4月1日からになります。それから、グラフの中の貸室停止、4月7日からと書いてありますけれども、これも4月1日からになります。緊急事態宣言が出る前から、白井市では4月、5月の貸室停止を決めておりました。

4月には月間で656人というコロナの発症がありました。そのときに、こういう貸室停

止、それから印刷機の使用も停止というかなり厳しい扱いをしております。その後、12月の、このグラフ、数字はありませんけれども、月間で4,347人というコロナの感染者数がありましたけれども、そのときはまだ対応がなくて、1月8日になってから、3月の21日まで緊急事態宣言が出ております。

ちなみに1月は、1万1,346人という月間の感染者数になっておりまして、3月になって3,208人まで落ち着いてきたという状況です。

次のページから、全体の利用状況、会議室の利用状況、多目的スペースの利用状況、交流スペースの利用状況とございますけれども、いずれも4月、5月の貸室停止、印刷機も停止ということで完全に落ちました。

それから、右上の③多目的スペースの利用状況ですけれども、ここについては、9月までほとんどゼロが続いたという状況がございました。交流スペースというのは、まちサポの中の自由に使えるテーブルですけれども、そこについても、かなり人数が減っていたという状況が分かりました。

それから、7ページにまいりまして、その他の利用状況。特に作業室と書いてあるところ、これが印刷機のある部分ですけれども、この利用ができなかったということが大きいです。一番下に、その他（閲覧、受付）ということで、まちサポのロビースペースみたいなところへ入ってきてパンフレット等を閲覧する、あるいは、まちサポの職員、コーディネーターと話をすることができていたので、これは割とコンスタントに人数が出ておりました。

それで、8ページに、多目的スペースの利用実績というところがございますけれども、この利用状況ですが、ほぼ真ん中のところに、右側の人数で205人というのがあります。ここは大きな展示場として使えることになっておりますので、コロナがない通常のと看すと、こういう205人とか300人とか、そういうのが軒並み入るという施設になっておりました。しかし、コロナでこのような状況になったということです。

次に、10ページにまいります。令和2年度登録団体ということで、毎年、登録団体は、なくなる団体もあれば、追加される団体もございます。それで活動分野として、保健、医療または福祉、社会教育の推進、まちづくりの推進、次のページに、学術、文化芸術またはスポーツの振興、環境の保全、地域安全、人権の擁護・平和の推進、国際協力、災害救援、子ども健全育成というような団体が並んでおります。この中で、11ページに丸が付いている2団体、これが令和2年度の新規登録団体ということになります。

まちサポの利用としては、印刷機も使えるということで、まちづくりの推進というところの26団体の中には、11ページの上のほうにありますように、自治会がずらりと並んでいるという状況になっております。ですから、いわゆる市民活動団体以外の団体も含まれているということになります。

次に、13ページにまいります。情報収集・発信機能というところですが、まちサ

ポには掲示板があります。これは、まちサポの中にもありますし、それから、今入ってきたときに、東側の入り口から入って、ロビーの部分、そこにも掲示板がございます。ここに登録団体による市民活動に関する掲示ができるようになっていて、そのほか行政機関や民間等の助成あるいは講座、そういったものも掲示しております。

それから、これらの掲示が終わったものについては、情報ファイリングとしてファイリングがされております。

それから、パンフレットスタンド。これ写真の一番右ですけれども、4段掛ける3つ入るものがあります。これが今かなりいっぱいになってきたので、3つに分割していた仕切りを外しまして、表から7種類ぐらい見えるような形にして、かなり密な展示にしております。

それから、コミュニティ図鑑というのを平成31年度から始めておりまして、31年度が70団体だったものをこの令和2年度は77団体になって増加しております。

それから、民間助成金コーナーということで、民間からいろいろ来ている助成金の案内を展示しております。

あと、ホームページによる発信は、登録団体の一覧、イベントや講座の情報、それからまちサポ通信のバックナンバーが出ております。

あと、フェイスブックによって細かい情報発信に努めておりまして、下のほうにあります令和2年度は61回の発信をしております。内容としては、右にありますように、そのときやっているイベントの告知、その結果の告知といったことを割とまめにやっております。

それから、15ページに移りまして、まちサポ通信の発行。これが配布先としては、まず登録している団体に全部送っております。そのほか、市内の社会教育系のセンター、小・中学校、高校、子育て支援センター等々に配布しております。内容的には、時々話題に即した企画テーマということでやっております。

それから、16ページ。まちサポでは「まちサポひ・ろ・ば」というのを2019年にかなり大々的に行いました。しかし、コロナ禍でその開催はいかなものでしょうかという話が出まして、まちサポとして、そのアンケートを取りました結果、開催しないほうがいいと。

まず活動の影響については、8割以上の団体がとても影響がある、あるいは影響があるという回答を示しまして、活動を維持するために感染症対策を実施したり、あるいは事業を縮小したり、屋外の活動に限定したりというような回答、あるいはオンラインに移行しているというようなことが出てきております。

それから、「まちサポひ・ろ・ば」そのものの開催については、今年度はやめたほうがいいのではないかとというのが4割、分からないというのが4割という状況でした。そのような状況の中で、前年度の事業を実施された部会の皆さん、代表の方にお集まりいただき

まして、2020をどうしようかということをお話しいただいたのですけれども、その中で、何もやらないのはよくないねということで、上にあるように「つなげよう！まちサポひろばのともしびを！」というタイトルを頂いて、詳細については、まちサポで考えてくださいということで実施をしております。

内容としては、事業概要にありますように、メッセージボード、今もまちサポのガラスのところに貼ってありますけれども、あれを31団体が作成されました。それから、先ほどもありましたコミュニティ図鑑。これを2020年版として作りましょうという話をしたというようなことが、この「まちサポひ・ろ・ぼ」の事業概要になっておりまして。事業風景のところにありますように、各団体から1分間にまとめた動画を出していただいた場合には、それを配信しますよということを行い、それから、このロビーのところで前年度の「まちサポひ・ろ・ぼ」のアーカイブ配信を行ったというようなことを行っております。

それから、団体さんからの相談機能。これは団体になる前の個人で来られた方の相談も含めてありますけれども、平成30年、平成31年、100件近かったのですけれども、令和2年には、60件に減少したということがございます。

18ページからは、個別のワークショップ等のものが出ております。

まずヴィジョナリーワークという、これはヴィジョンを考えましょう、それはなぜそうしたいのですか、それにはどんな価値がありますかというようなことを投げかけながら、みんなに考えていただくというワークショップを行いましたけれども、これはウェブ上で開催しております。

それから、その次の19ページですけれども、「どうする？これからのコミュニティ活動」ということで、事業風景のところの「今こそ伝えたい、コミュニティ活動の重要性」というところで、CRファクトリーの呉さんに御説明いただいたのですけれども、社会参加の機会づくり、居場所づくり、担い手づくり、そういったことが今重要ですねというような話が第1部でありまして、第2部では、それに関してグループワークを行うというようなことをウェブ上で行いました。

それから、20ページになりますけれども、これはリアル開催で行いましたが、県の県民生活・文化課から講師派遣の事業がありまして、それを受け入れる形で実施しております。

講師は、6次産業ということで、今あちこちで宣伝やっていますけれども、佐倉でまちづくりを進めていた講師の方に来ていただいて、関心のある方にお集まりいただいたということです。アンケートの中身を見ますと、白井で農業のことを考えている人がこんなにたくさんいるということにびっくりしたというようなことがアンケートで出ておりました。

それから、21ページにまいります。これは千葉県と白井市の共催事業という形になっております。I I H O Eの川北先生に講演をいただいているのですけれども、この中で使用した自治体の状況、年齢であるとか、そういったものは、全て白井市の内容で講演をいた

だきましたので、非常に身近で分かりやすい状態であったということです。参加者でオンライン63名と書いてありますが、これは県と共催事業ですので、白井市以外の方もたくさん参加されているということです。

それから、次の22ページ。「しろい市民活動スキルアップ講座～資金調達を考える～」ということです。第1部では、ファンドレイジング・コンサルタントの堤先生に講演いただきましたけれども、助成金に応募するというパッシブなやり方ではなくて、自らファンドレイジングをやっていくという、そういう御講演だったものですから、参加者の方からは、レベルがちょっと高過ぎたというような反応も出ておりました。第2部では、こちらに今いらっしゃる〇〇さんから、第1番で御説明があった支援補助金について説明があり、それについて、具体的にどう書いていきたいと思いますかというような作業までやったということです。

それから、23ページ、広報ツール相談会ということですけれども、真ん中に事業風景がありますが、講師と参加した人が、自分のところで作ってきた広報材料を前にして、マンツーマンで指導を受けるという非常に贅沢な相談会を行っております。大変好評でした。

それから、24ページ、ここからは全てZoomです。まず初めてのZoom体験会ということで、これが全体で9回行われております。それで、Zoom全く未経験者が相手ということで、本当にレベルがあまりにもばらばらだと、ホスト側の運営ができないということで、第8回までは登録団体に限定して行っております。第9回は、登録団体以外にも広報で公募をかけて行っておりまして、1月20日、午前3人、午後1人、登録団体以外の方も参加されたという結果になっております。

その次に、同じくZoomの25ページ、実践編。ここでは画面共有の体験を主にやったということです。それぞれの参加した人が、自分の持っている資料を画面共有に出すという実体験をしていただいております。

それから、26ページ、Zoom体験応用編ということで、新たなコミュニケーションとしてやっていくためのやり方を話し合いながら進めたというやり方です。成果として、この中に書いてありますが、オンラインで交流の場づくりを自分でもやってみようと思ったというような回答が出てきております。

それから、27ページは、先ほど御説明があった白井の補助金の実際のプレゼンテーションのリハーサルを行っております。

それから、28ページは、先ほど簡単に御紹介いたしました「まちサポひろば」に関して、コロナに関するアンケートを行いましたという御報告です。

以上です。

[委員長] ありがとうございました。

まず昨年度の事業報告について、何か聞きたいこととか、御質問ありましたらお願いします。

では、〇〇さん、どうぞ。

[委員] 7つの機能に分けて、きちんと簡潔に御説明いただいたので、1年間の流れがよく分かったと思いますが、お願いというか、要望なのですけれども。

15ページ、8番、まちサポ通信の発行を奇数月でやっているのですけれども、2,000部というのを白井市内のあちこちに配っているのだけれども、私としては、すごく不満足というか。内容が不満足なのではなくて、印刷が不満足。2色刷りをしているのですが、それがきっちり合っていないくて、写真などがずれずれのものが多いのですね。せっかく伝えようとしている情報が、見ただけで、ああ、これいいやみたいなの状況になっているのです、はっきり言うと。

担当の方がいろいろ考えて、いろいろな形で記事を集めているのがすごく伝わってくるのだけれども、その伝える手段がうまくいっていないなというので、何とかしてくださいという要望です。

[委員長] 何かありますか。

[事務局] ありがとうございます。今年になって機械が変わりましたので、かなり改善されているとは思いますが、まだずれがあるかもしれませんので、注意して扱っていきたいと思います。ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

では、〇〇さん、どうぞ。

[委員] 10ページにあります登録団体92団体なのですが、センターに来ている10月5日付の一番新しい登録団体一覧では、116団体にまで増えているのですね。その活動分野のどの部分が増えていて、どういった広報をしたから、この人たち来るようになったんだよみたいな、そういうのがあれば教えていただきたいなと思います。

[委員長] ありがとうございます。この後のパートとも関わるかもしれないですけれども、もしお分かりになれば。分からなければ、この後の今年度の上半期報告でも大丈夫ですが。何か、すぐ分かりますか。

[事務局] お手元の資料で、116という番号がありますけれども、それは登録の固定番号なのです。ですから、途中が抜けておりまして、平成31年度が92団体、令和2年度の末で99団体ということになっております。

以上です。

[委員長] そうすると、直近の登録団体数というのが116ではないということなのか。

[事務局] はい。固定番号になっているので、中を見ると、番号がいっぱい抜けていると思います。

[委員] 分かりました。

[委員長] ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

では、〇〇さん、どうぞ。

[委員] 18ページなのですけれども、資源の掘り起こし・提供機能というところで、これの成果のところ、分かれば教えていただきたいのですが、グループでの構想の一致があったところで引き続き連絡を取り合い、実現に向けてのマッチングが成立したというところがあって、これは何かをやる気がある市民の人たちを発掘できて、つなげることができて、さらに何か新しい活動が生まれつつあるという、そういうことなのでしょうか。

[委員長] お願いします。

[事務局] 今後の課題のところを御覧いただくと、現役世代同士の交流・マッチングや担い手を求める団体とのマッチングの交流の場を想定しながら、リアル、オンライン併用で今後の開催を検討していくになっておりまして、実際、その後の具体的な事業が起きたということには、残念ながら、なっておりません。

[委員] これは、参加者同士が出会ったという意味。

[事務局] はい。

[委員] 分かりました。それも新しい可能性で重要だと思います。ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。

ほかは。

はい、どうぞ。

[委員] 〇〇でございます。15ページのところのまちサポ通信の発行のところなのですが、これは多分、ペーパーとして2,000部配布をしているというような形だと思うのですが、これはそのペーパー以外の何か発信をしているとか、そういうのがあれば、ここに記載をしてもいいのかなというふうに思っているのですが。

[委員長] では、お願いします。

[事務局] まちサポのホームページ上で見るができるようになっておりますので、次年度以降、ここにそういう注意書きを入れようと思います。ありがとうございます。

[委員長] ほかはいかがでしょうか。

では、私からも言わせていただくと、何か上から目線で言うのは何なのですが、非常にコロナ禍で大変な中、頑張っていらっしゃるなどというのはよく分かりました。

今の紙の話にも関係してくるのですけれども、この後の話とも関わってくるのですが、これまで正しかったこととか、これまで効果的だったことが、今後もそれが正しいのかとか効果的なのかというのは、大分分からない世の中になってきましたので、例えば紙の資料というのも、脱炭素とかカーボンニュートラルという目から見れば、紙でCO₂排出が当然出ますので、紙で配ることが、果たして今後も正しいのかというのが問われてしまう

世の中に今後なっていくということなので、国を挙げて脱炭素を目指さなきゃいけないということに。

ですから、もちろん市民活動の紙文化というのも私も好きなので、直ちにみんなデジタルのPDFにしましょうという話ではないのですけれども。1つの例で、常に自分たちの日頃の業務とか活動を見直さなければいけない時代になってしまったという、良くも悪くも。そこを日々の業務をやられる中で、ぜひ自分自身問うていていただきたいなと思いました。

〔事務局〕 ありがとうございます。できれば、メールとかウェブ対応していきたいのですけれども、それで送っても、全然見られないということもあるので、本当に重要で知っていただきたいことには、ウェブで送った後でさらに郵送もしているというのがまだ現状です。

〔委員長〕 そうしたら、相当押してしまっているんで、後半の時間を少し削減させていただきますが。

続きまして、今年度の上半期の御報告をまずお願いできればなと思います。

〔事務局〕 今年度の上半期ですけれども、実は、先ほどコロナの話を簡単に御説明しましたが、そこで数字を上げていたのが、もう1回復習しますと、第1回の緊急事態宣言のとき、昨年4月から5月ですけれども、千葉県では最高で月間656人でした。それから今年の1月から3月、最高で月間1万1,000人でした。今年の8月2日から9月30日まで緊急事態宣言が出たのですけれども、その前の7月が既に1万2,700人、それから8月が3万8,331人、9月が9,048人という極めて感染者数が多い状態が続きました。

そのようなことも影響しているのですけれども、この事業経過を御覧いただきますと、一番下、育成ということで、主催者向けZoom講座を4月に開催いたしました。ここから少し飛んでいるのですけれども、支援課さんのほうで大々的にこの会議室を使いまして、市民向けのZoom講座を精力的に実施していただいたという期間になります。

それから、まちサポひろばというところがありますけれども、昨年度は、残念ながらリアル開催ができなかった。今年度は、コロナの感染者数が本当に多いのですけれども、やはりリアルをやってみませんかということで、キーになっていただいていたメンバーにお集まりいただきまして、開催の方法を何とか考えましょうというお話をするところから始めまして、7月に企画委員会、それから、その当時は参加団体がもっと手を挙げてくると思っていたので、山を3に分けるという提案も行いまして、グループ会議というのを開催したということで準備を進めておりました。後で御説明しますけれども、実は参加希望が非常に少なかったということで、現在は、リアル開催を1日でやろうということで準備を進めている状態です。

上から順に行きますと、拠点機能については、6、7月に近隣センターを調査いたしまして、各コーディネーターが近隣センターに伺って実情をよく見てくるということ考

えたのですけれども、コロナで訪問はまだ見合わせております。

それから選挙の問題もありまして、9月以降は、選挙用の押さえが入っていたという状態がありました。ただ、様子を見ながら、8月から9月の予約を再開したというような、かなり様子を見ながら、ぎりぎりの運営をしてきております。

それから今年度、特に力を入れていたのが助成金情報です。これをかなり精力的に集めました。まちサポの入り口に助成金の概要、どういう団体に向いていますということも示した上で概要を出し、内容についてはホームページに掲載し、特にこれは行けそうだねというのは、団体にお勧めメールをプッシュ型で出すというようなところもやっております。

それから、まちサポ通信については、7月以降、団体が主役のまちサポ通信にしていこうという模様替えを行いまして、幾つかの団体に集まっていたいただいて、どういうふうに活動が始まったのですかというところから始めて、皆さんにお話を聞いていただいて、それをほかの団体にも知っていただくという編集に改めております。

それから、フェイスブックや動画、そういったものも強化しております。

それから、資源掘起し・提供というところで、実は緑の守り人養成講座というのを5回シリーズで企画したのですけれども、応募が1名しかなかったと。いかにも緑の守り人をさせられるのではないかというプレッシャーのある告知をしてしまったというのが大失敗だったなと思いますけれども、看板メニューになるはずのものが実施できなくなりました。

あと、まちサポ通信のほうで、先ほど言いました座談会をやるのと同時に、交流・コーディネーターのほうで9月にオンラインサロンというのがありますけれども、これを現在は毎月実施ということで、いろいろ関心の重なっている方にお集まりいただいて、Zoom上で議論していただくということを進めております。

そういった中の具体の話が、次のページ、主催者向け講座です。これはともかく習うより慣れろということもあって、やったというところですよ。ホストになっていただくためのやり方を体験していただいたということです。

それから、次のオンラインサロン。これが今、続いているシリーズになりますけれども、第1回は、高齢者の共助というトークテーマを用いまして進めたというのが上期の状態でした。

あと、今年度、下期の計画。

[委員長] そうですね、併せてお願いします。

[事務局] 下期の計画を御説明させていただきたいと思います。

拠点機能については、現在、まちサポだけが、市の社会教育施設などと違ってウェブ上で予約ができないというポジションになっているのですけれども、これを来年度からやろうということで今、調査準備を始めております。

情報収集・発信については、助成金情報がかなり集まってまいりましたので、これを整理して、もう少し団体にじかに触れてもらうようなことも検討していきたいと思っております。

それから、通信を隔月でやり、団体紹介動画はさらに増やしていこうということで、皆さんに1分間動画が目に触れるような形で出していこうかなと思っています。

それから、フェイスブックは月に4、5回やっております、相談については、10月は、ここは5件になっておりますけれども、7件来ております。

それから、資源の掘起し・提供ということで、市民活動というのは実は楽しいんだよということも会得していただいたほうがいいのかなと思っております、そんなことも年度内にできればいいなと計画しております。

それから、来年度に向けて、団体の活動や市民が体験参加できるような仕組みを導入できればということで今、企画しております。

それから、オンラインサロンを継続するのと、「まちサポひ・ろ・ぼ」については、1月30日に1日だけですけれども開催、ただし、大声の出る楽器演奏とかコーラスは駄目、それから、その場での飲食は駄目とか、かなり厳しい条件を皆さんで自主的に規制をかけてやろうということで進めております。

育成については、主催者向けZoom講座の継続と助成金講座、それから団体のチラシ講座、これもやっていこうと思っています。

それから、調査・研究として、これはもうすぐ実施しようと思っておりますけれども、団体さんに、まちサポができて3年になりましたから、その評価と、それから団体が実際にどんな協働を今まで経験しているとか、そういったことも含めた調査をやろうということで今、計画を進めております。

以上です。

[委員長] ありがとうございます。

では、今年度の分の報告と計画を含めて、併せて御質問・御意見あれば伺おうと思いません。いかがでしょうか。

では、〇〇さん、どうぞ。

[委員] こういうふうに一覧になると、ああ、こんなことをやったのだなど、私自身も幾つか参加したのものがあるなと思っておりました。

それで、つい最近、私はまちサポ通信座談会、それからオンラインサロンというのに参加したときにすごく思ったのですが、まちサポに登録している団体は横並びというか、皆さんいるわけですけれども、その人たちがお互いに手をつなぐというのが、あまり場面的にないなと思って、今回、さっき言ったように座談会とかオンラインサロンとかをやって、こういうふうにはほかの団体と話し合ったり、つながったりすることはとても大事なのだと思ったり、楽しいことなのだなど。それがオンライン上であっても、リアルであっても、

全体のまちサポひろばまで行かない、もっと小さな単位で登録団体の人たちが集まる機会をつくっていただけたらうれしいなど、1つの登録団体の1人として感じました。

〔委員長〕 ありがとうございます。

何かコメントありますか。

〔事務局〕 そういうお言葉を頂いて本当にうれしいです。このやり方は、どんどん進めていきたいと思います。

〔委員長〕 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

では、〇〇さん、どうぞ。

〔委員〕 オンラインサロンのほう、引き続きなのですが、参加者が7名程度ぐらいかなと思われるのですが、これから毎月されていく計画の中で、もう少し参加者を増やすとか、せつかくいい内容ですので、もっとたくさんの人に参加をしていただくということはお考えなのでしょうか。

〔事務局〕 実際にその場で話せるポジションとしての参加ということで行くと、やはり六、七名というのが限度で、テーマを設けて、例えばそれについてサポーターさんからお話しただいたりということを最初にやった上で、後が議論になるのですけれども、そこが人数が増え過ぎると、話し合いの雰囲気というかそういうのが出てこないのです。

ただ、御指摘いただいたように、7名だけでやっているのはもったいないですから、発言できなくても、見て参加できるというといったことも含めて、やっていけないかどうか検討したいと思います。

〔委員長〕 よろしいですか。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

では、どうぞ。

〔委員〕 2つほどあるのですけれども、1つは情報収集・発信のところで、助成金情報を収集されて、団体にお勧めメールも出されているということで、これは市内の団体というか、活動の様子を把握されているからできることだなと思って、すごくいいことだなと思いました。

そのときに、質問なのですけれども、何か申請書の書き方のアドバイスとか、そういうところに進むケースがおありなのかどうかをお聞きしたいなというのが1つです。

もう1つはちょっと違うところで、育成のところなのですけれども、資料2の2ページに、まちサポの7つの機能というところで、育成が1つはスキルアップなのですけれども、もう1つは、リーダーとかコーディネーターの育成という、さらに中心になるような、引っ張っていくような方の育成ということで、すごく難しいと思うのですけれども、そこに向けて何か取組の構想とか、計画があれば教えていただければと思います。

〔委員長〕 お願いします。

[事務局] 助成金の情報を出していったって、具体的に申請について相談が来ているかという
と、それはございません。ただ、最近聞いた中で、あそこの団体が出したそうとか、そ
ういうのを2つほど聞いておりますので、これが効果を上げたかどうかは分かりませ
んけれども、助成金に反応するということが出てきているかと思えます。

それから、リーダー・コーディネーターの育成、これは本当に一番難しい問題です。我々
としては、各団体が何に困っているのかということをもうちよっと聞き耳立てて、それを
さらに、把握した場合には、コーディネーターの中で共有化していきましようというこ
とをしております。

その中で、共通して、こういうところが育成として望まれているなというのをキャッチ
したら、そういう人たちをピンポイントで声をかけて、さらに公募という形でやっていき
ましようという方針だけは出したのですけれども、まだそこまで蓄積が来ていないとい
う状態です。

[委員長] では、松岡さん、お願いします。

[事務局] 今のコーディネーターの育成については、来年度、コーディネーター育成の
ための講座をシリーズ化させたものをやるという方針の下で計画を進めていこうとい
うところになっております。

[委員] ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。

では、〇〇さん、どうぞ。

[委員] 教えていただきたいのですけれども、オンラインサロン、9月は高齢者の共助
というところがテーマだったと思うのですけれども、11月以降、こういったテーマが決ま
っているのであれば、そのテーマの内容を教えていただきたいということと、緊急事態宣
言が解除されまして、こういった対面式のものも考える必要があるかと。もちろん感染
対策はしっかりした上だと思えるのですけれども、人数を多少絞った上で、やはりZ o o m
が苦手な方々もいらっしゃいますので、こういった対面方式の交流は考えているのか、そ
の2点について聞きたいと思えます。よろしくお願いします。

[委員長] お願いします。

[事務局] 11月のオンラインサロンについては、テーマを決めておりまして、これから
公開するというようにしております。今、ど忘れしておりますけれども。

それから、12月以降については、まだ計画には至っておりません。

それから、これを対面式でというのは、ほかの方からもそういう情報が出ておりますの
で、スタッフの中でどういうやり方があるかというのを検討したいと思えます。

[委員長] では、松岡さん。

[事務局] 11月のオンラインサロンのテーマは、お互い団体さんがどのような情報
をやり取りする手段として活用しているかというようなことを中心テーマとして、サロ

ンを開催する予定となっております。以上です。

[委員長] ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

私からも少しいいですか。今年度もすごく、緑の守り人というのは残念でしたけれども、こういうのは結構、試行錯誤も大事だと思っていまして。先ほどに続き、上から目線で申し訳ないのですけれども、多分まちサポに求められている最低限のところは、もう十分頑張っていらっしゃると思うのです。

だから、ここから私が言う話は、プラスアルファの話だと思っただいただいてもいいのですけれども。一般的にNPOとか市民活動支援センターというのは、まずこういった来たものに対する対応というのが1つ、最低限やらなければいけないことで、これはもう、例えば指定管理を入れたら、最低限これはやってねという施設管理と相談対応と講座は何回みたいな仕様書に書かれるものだと思っただい。

ただ、それはある意味、最低限のラインでして、そこから先というところと言うと、例えば、多分、この森の守り人講座とかは、それに近かった試みだったと思うのですけれども、例えば他地域でやっていることを白井でも広げていくためのきっかけづくりみたいな。分かりやすいのは、子ども食堂とか、フードバンクとかというようなものが例えばありますね。あと、無料の学習塾とか学習支援、ステップさんがやられているようなものとか。あれも結構、幾つかパッケージ化されている試みがあって、それをやろうとか。

そういうのを例えば全国でやっている先進的な方とか、あるいはそういった中間支援組織がそれぞれあるので、そういった人たちを呼んできて、白井でそれを広げていこうとか、それを知ってもらおうと。それで感化された白井市民の方が、じゃあ私もやってみようかなというふうに、もちろんそれは、放っておいてもなる場合もあるのですけれども、やっぱりきっかけづくりというのがないと、なかなかゼロから自分で調べてやるという人は。そういう人にとっては、はっきり言うと、まちサポのサポートは、要らないといえは要らないわけですよ。自分で立ち上がってくれる市民の方。

だから、ちょっとそこまでは行かないけれども、何かきっかけがあれば立ち上がって自分で市民活動をするぞという方々をある意味たきつけていくとか、サポートしていくのが、まちサポの役割の、ちょっと応用版ですけれども、役割なので、この緑の守り人というのはあれでしたけれども、これに懲りず、私はぜひいろいろな形でやっていっていただきたいなと思っただい。

あと、今度、給付金が配られることになりますけれども、例えばそういう共同募金ではないのですけれども、先ほど、堤さんと呼んでファンレイジングの講座をやって、ちょっと皆さん引いてしまったという話がありましたが。例えば許されるのであれば、そのまちサポのところに団体ごとの募金箱を作って、そこに入れてもらうとか、あとは街角の、コロナであれですけれども、街頭募金を許されるのであれば、みんなで募金活動をする

か、通信を配るとか。結構ほかの地域だって、そういうことをやっているのです。

なので、白井市の特徴としては、多分、駅を押さえれば、それなりの市民の方が情報に触れることができるのではないかとはい思いますので、ぜひそういう地道な営業活動というか、啓発活動というのもやっていていただきたいなと思いました。すみません、長くなって。

[事務局] ありがとうございます。考えていきたいと思います。

[委員長] そうしたら、このまちサポについては、よろしいですか。

そうしましたら、後半の議論に関わるところも大分御意見頂きましたけれども、それでは、一旦ここで、まちサポに関する議題は以上とさせていただきます。〇〇さん、どうもありがとうございました。

[事務局] ありがとうございました。

[委員長] ちょっと押しているのですが、休憩なしでそのまま行きたいと思うのですが、大丈夫ですか。よろしいですか。

(3) withコロナからアフターコロナへ

そうしましたら、引き続き「withコロナからアフターコロナへ」ということで、今も話題に出ておりました今後の市民活動の再始動と新たな活動の可能性についてということをお話しさせていただこうと思います。

最初に、少し事務局のほうから説明がありますので、よろしくをお願いします。

[事務局] そうしましたら、資料の5番を見てください。1枚ペラのものです。

議題説明としまして、新型コロナウイルス感染症の拡大により、各団体の市民活動は多大なる影響を受け続けています。コロナの猛威が急速に落ち着いてきていますが、まだまだ市民活動は停滞している状況にあります。

そこで、下記の2項目について議論をしていただき、アフターコロナに向けて市民活動支援課やまちづくりサポートセンターでの支援策、事業見直し、新たな事業等について御提案をいただければと考えて議題を設定いたしました。

2項目について、まず1点目ですけれども、市民活動再始動への障壁と解決策ということで、まずはコロナ前の活動水準に戻るための現在、障壁となっているものはどういったものがあるか、また、それを乗り越えるためには、どういった解決策があるかというようなことを皆様方で少しアイデアを出していただければと思います。

再始動への障壁について、何もないとあれですので、5つほど感染リスクに関することとか、感染予防対策費に関すること、活動資金に関すること、活動場所に関すること、活動意欲に関すること、その他、こんなことを言っている団体がいたよとかということがあれば、こういったことが障壁になっているのではないかなというものを幾つか出していただいて、その解決策を一緒に考えていただければと思います。

2番目としまして、アフターコロナで求められる市民活動の可能性ということで、アフターコロナにおける社会変化とか、その社会変化に対応するための新たな市民活動の可能性というところを〇〇先生のほうのリードもいただきまして、議論していただければと思います。

まちサポの報告の中にもありましたけれども、市民活動支援課、また、まちサポのほうは、令和2年度、3年度、Z o o mを主にメインとした体験講習会とか活用講習会、またオンラインミーティング、オンラインサロンということで支援してきましたけれども、こういったこと以外にも、何か支援できるものがあればということで議論していただければと思います。よろしく願いいたします。

[委員長] ありがとうございます。

後半は、ざっくばらんに皆さんの御意見を頂きたいということで、フリーディスカッションみたいな感じで進めていこうと思います。

議論の参考までに、私のほうからも資料を作らせていただきましたので、こちらのヒントというのを先に御説明させていただこうと思います。

本日付で東日本大震災の死者数というのが1万8,425名、コロナの死者が1万8,315名ということで、東日本大震災の死者数とほぼ同じになりました。前から私は思っていたのですけれども、やはりコロナ禍というのは、東日本大震災級の都市型大災害だと思っています。こういった災害のときこそ、市民活動やNPOというのが必要だと、これは前から言われていることです。

価値観や生活様式等の変化、孤独・孤立等の新たな課題ということで、これは皆さんお感じのとおり、例えばこれまでの紙とか、あるいは、判子文化とかというのが変わってきていますし、そもそも自分の幸せは何だろうとか、リモートワークとかテレワークとか地方移住というような形とか、様々な考え方が皆さん変わってきていると思います。

一方で、政府のほうでも担当大臣が置かれているのですけれども、コロナ禍であらわになった孤独・孤立対策ということが非常に重要視されているという面も出てきています。こういった新たな課題というのでも出てきていますよと。

そして、先ほどもお話のあった例えばデジタルデバイドの問題というのは、ますます行政手続とか、市民活動関係もDXが進んでいくと、デジタルから取り残されていく人たちというのが非常に不利益を被るという社会になっていくわけでして、そういったデジタル支援みたいなものも市民活動として必要になってくるかもしれません。

社会変革や自己変革、単なる復元復旧から創造的復興というのは、これは私、ずっと東日本大震災の支援に当たっているのですけれども、結局、三陸沿岸域とかは、東日本大震災の前から、人口減少だとか過疎化だとか、地域経済の停滞というのに悩んでいたわけですよね。そこに震災が来てしまったわけなのですけれども。だから、単純にかつての姿に戻すだけでは、結局同じ問題が復元されてしまって苦しむだけだと。だから創造的復興と

というのが当初から言われていたわけなのですが。

私はコロナ禍も同じだと思っていまして、結局、コロナの前に単純に戻すだけだったら、同じ問題が復元されるだけだというふうなことを思っています。ですから、もちろん難しいのですけれども、こうした創造的復興の視点というものを持っておかないといけないだろうなど。

あとは、先ほども出てきた市民活動・NPO間のネットワークですとか、中間支援、これは今、まちサポさんが担っているようなこと。あとは、行政からの資金的な支援をはじめとして様々な支援策というのが重要だと思っております。

プラスマイナスの変化というのを次のページに書かせていただいています。これは皆様、特にマイナス面は、言うまでもなく、事務局さんの資料にも書かれていたことだと思います。

一方で、プラスの変化というのもあったなと思っていまして。報道されている限りでも、いろいろな市民の方が困っている人を助けようとか、NPO間で連携して乗り切ろうとか、そういう動きがありましたし、実際、寄附もすごく増えています。

あとは、政策提言とか、NPO活動への関心の高まり、これは統計上、観測されています。オンライン、デジタル化の推進だとかいうところですね。

あと、参考までに、政府のほうで孤独・孤立対策というのが、1つ管政権下で大きな資金的手当がされたものの例なのですけれども、次のページにあるのが。これは計60億円予算措置されています。

よく見ていただくと、ちょっとこれは難しい話なので恐縮なのですが、ほとんど交付金です。交付金というのは、都道府県市区町村が手を挙げて、こういう交付金、例えば地域子供の未来応援交付金というのを申請しますと言って、その交付金が国から下りてきて、その交付金で地域のNPOとか任意団体が子ども食堂をやるみたいな、そういう仕組みなのですけれども。

実際、この地域子供の未来応援交付金は執行率がすごく低くて問題になっているのですが。何が言いたいかと言いますと、そういった国の施策として準備されている交付金というものも、こういう情報を知って、あ、やりましょうよ、白井市さんでというようなことをパートナーとしてやっていくようなNPOとか市民活動団体が、市内にあるのかとか。その下の女性に寄り添った相談支援とか、これも結構な額、13.5億円措置されてまだ余っているのですけれども。こういったものも、こういった情報を知って、白井さん、やりましょうよ、女性の生理と貧困とか様々な問題が起きているから、生理用品で困っている女の人もいるかもしれないみたいな、そういう人を活用する力というのが、やはり求められる世の中になってきておまして。

先ほどの話に戻ると、最低限のラインはやっていらっしゃると思うのですが、もう一声お願いするとすれば、例えばこういった国の施策とか県の施策とかまで、まちサポさん

にお願いするのは難しいかもしれないですけども、ぜひそういうのもしっかり白井市で展開できるようなNPOとか市民活動団体が育っていくと、本当に様々な予算や事業もうまく活用できるようになるなというふうには思っているのです。

あるいは、白井市に対して政策提言、こういう政策が必要ですか、こういった予算が必要なのではないですかというの、今日、先生方もいらっしゃいますけれども、市民活動団体から提案していくのも立派な市民活動なので。

そこら辺ぐらいいまで、後半の議論は視野に入れていただいて、それで、小さな活動でお困りのことから、今後のポストコロナ、アフターコロナではこういったことが求められるのではないかと、必要なのではないかと、蟻の目、鷹の目ではないのですけれども、どちらに振っていただいても構いませんので、自由闊達な議論をしていただければと思っております。

あと30分ぐらいいありますので。お一人ぜひ1回は、どちらに触れていただいても構わないので、コメントを頂ければと思っております。それでは、御自由にどうぞ。順番に振っていったほうがいいですか。

では、〇〇さん、どうぞ。

[委員] 再始動への障壁とかいうところからちょっと考えてきたのですけれども、うちはセンターなので、市民活動ではなく、利用者さんがセンターを使うに当たってどうだったかなというのを思い返しまして、ほぼほぼ気持ちの問題というのが一番大きかったなと思います。

やりたい人とやりたくない人との葛藤だったり、やっていかなければいけないのは分かっているけれども、やるのが怖いとか。ワクチン打ったでしょう、いや、ワクチンはうつらないわけではないよとか、その辺の葛藤が物すごくあって、結局、再開されるのが今、徐々に再開しつつあるという状況なのですね。

なので、この障壁とか乗り越える解決策とかいっても、最後には気持ちなのだねとなってしまうと、これ、何をどうしてあげればいいのかみたいなところがあるセンターの現状でございます。これでいいですか。

[委員長] ありがとうございます。貴重な現場の意見だと思います。強制できないですからね。最終的には御自身、一人一人の判断ということになりますから、それは実際そうだと思います。

すみません、解決策って議題に書いてありますけれども、ある意味で言うと、それが分かれば苦労しないわけで。そこまで洗練されていなくても、後半は全然構いませんので、自由に御意見、コメントいただければと思っております。

では、〇〇さん、どうぞ。お願いします。

[委員] 今、〇〇さんがおっしゃったこと、本当にすごく重要なところだと思います。

私も千葉市の地元の稲毛で、子育て支援とか子供の活動のネットワークをやっている

のですけれども、そこでNPO法人とか、会として、やるかやらないかを定められるところは再開できているのですけれども、子育てサークルとか、個人の集まりのようなところは、結局、誰が引き受けていいか分からないというか、主催者の人にみんなすごくじくじたる思いというか、すごい重荷を抱えて、今もどうしようかと悩んでいらっしゃる方がたくさんいるので、本当に大切な問題だと思います。

稲毛区なので稲毛のネットワークなのですけれども、稲毛のネットワークだと、幾つか方針を出しまして、1つは感染対策をしてできるなら、それを学ぶ。もう1つは、やり方を変えればできるなら、今日の間接報告にもありましたけれども、外で活動するようになればできるとか、活動のやり方を工夫すればできるというなら、これも一緒に学ぼう。あとはもう、今、再開しなくてもいいのではないかという、そこも残しておくのも重要なことというふうに思いました。

ただ、そのときにやる気とか、やる気をつなぐとか、それからスキルがやらないうちに忘れられてしまうというか、伝わっていかなくなってしまうと、コロナが終わっても活動がもう再開できないので、それはネットワークとか、あるいはセンターとかが活動者をつないでいく、あるいは活動者同士が繋がらなければ、センターが地域の主立った人とつながっておくという、そんな方針で今、稲毛ではやっています。

[委員長] ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

では、〇〇さん、どうぞ。

[委員] コロナ禍での活動について、私自身のことを話したいと思います。

長い間、まちサポの登録団体だったユウカリアンサンブルが今年4月に解散しました。コロナ禍ということもあるのですが、〇〇さんの用意してくださったプラスマイナスの表でいうと、活動の自粛・中止・延期、それから団体の休止・解散・モチベーション低下、会員等減少、まさにこれなのですが、ほかにも、コロナ禍だけの理由ではないけれども、あえて終わりにしてしまったということがあります。

それで、障壁を乗り越えるための解決策とはって私なりに悩んだのですが、本来の筋ではないのかもしれないけれども、みんなでやれないなら、私1人でもやろうではないかみたいな、1人の活動もありかなと思って始動しました。

そうすると、面白いもので、1人でやるよと息巻いていても、ちゃんと一緒にやろうねという人も現れてくる。そういう一歩踏み出してみると解決策って見つかるのかなというのが、ここ最近というか、コロナ禍において私が感じたり学んだりしたことです。

[委員長] ありがとうございます。本当に貴重な実体験で。いちいち私がコメントするあれでもないのですけれども。

でも、そもそも私もよく入門的な講座とかで話すのですけれども、市民活動って最初は1人で始まるものなので、よく最初、誰かが問題に気づいて始めたりして、その後仲間が

広がって、例えば法人化するみたいなのがよくある成長ストーリーなのですけれども、別に元に戻ったって、行き来したっていいわけではないですか。ですから、それは非常にある意味、正しいし、またちょっと目的を変えて、名前も変えて、次はコアラアンサンプルなのか分からないのですけれども、歩み始める。だから、そういう人たちを何とかサポートしていただきたいなということですかね。

ほかの方、いかがでしょうか。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 黙っていようかと思ったのですけれども、多分、順番でということで回ってくるかなと、先に手を挙げさせていただきましたが。

私、今回、PTA連絡協議会ということで、市P連のほうから参加をさせていただいているのですが、実は市民団体の補助金のほうでも採択いただきました桜台のリアル防災訓練のほうの代表もしていたことがありまして、その経験でちょっとお話をさせていただければと思うのですが。

団体自体が本当に、PTAの経験がある人とか役員の経験のある人、何人か集まってるところから始まって、自治会の防災担当をしている人とか、そういうコアなメンバーから始まってきたというような形なのですね。どうしてもお金がない関係があって、いろいろなほかの自治会さんにも声をかけて、協賛金というお金を頂きながら運営をして、元年度のときの補助金も頂きながらということで活動を結構、何回かやってきたわけなのです。

さすがに昨年度はコロナということで、一切なしでという満場一致で、なしになったのですが、実は今年度、2年度につきましては、先行きが分からないということもあったのですけれども、ある程度、感染対策をすればできるのかもしれないねというようなことがあって、実は参加者が大体100名ぐらいいまして、半分弱ぐらいが小学校、中学校の子供たち、あと地域の方たちで100名ぐらい参加の方いたのですけれども。

子供たちは、もう学校は普通にやっていますので、子供たちだけのグループと地域の方たちのグループ、学校のほうとして見ると、子供と地域の方が一緒になってしまう、それで子供たちに感染が広がるのが怖いということもあったので、分けてやろうかなという話があったりですとか。それこそ体験型の訓練ではなくて、Zoomとかを見て講座的な形でやろうかというような話が上がりました。

そういうふうに別々にやろうかなという話もあったのですが、最終的な結論としまして、やはりリアル防災訓練ということで、避難所となっている体育館で、参加者が泊まると、それがメインだったものですから。さすがに夜は寝ながらマスクはしないよねとか、寝ていてもマスクを外しちゃうよとか。そうでなくても、子供たちは夜中1時ぐらいまで騒いでいますので、ちょっとその状況だと、もし1団体、個人の集まっている団体でやって、結果的に何もなければいいのでしょうかけれども、もしそこでうつってしまった、感染

してしまったということになると、やはり怖いよねというようなことから、そういった心配事があるのであればやめようということで、実は今年なってしまいました。

本当は、東日本から10年というような年の節目でしたので、何とかやりたいなという気持ちはあったのですが、諸々のことがあってできなかったと。

実は来年度どうしようかという話の中なのですが、毎年やっていけば同じメンバーが集まってくれる、またはそのお友達の方、知り合いの方が入ってきてくれるということで継続してできるのですけれども、2年やらないでいると、メンバーが変わるということが今一番心配をしているところです。

先ほど、継続性という話がありましたけれども、それが途切れてしまうかなという感じで思っています。実は私も、来年度どうしようかなと。継続してやっているときには、今年こうだったから、来年はこういうふうにしようというような感じで意気込みがあったのですけれども、2年やらないでいると、うーん、来年というところです。全然まとまっていけませんけれども。申しわけございません。

[委員長] ありがとうございます。皆さん、似たような状況だと思います。本当に2年もやらないと、文化が失われていくというか、それ自体、やり方を忘れるという面があると思います。そこを何とか後押しというのが、今日のテーマなので。

では、先に〇〇さん、どうぞ。

[委員] 市民活動の内容は様々なので一概には言えませんが、このコロナの期間、私個人は活動を結果としてですが、無事に続けることが出来ています。当初はコロナ感染リスクに対するセンサーが各自バラバラでトラブルが起りかねない状況があったと思います。しかし、感染対策も明確になってきました。換気、マスク着用、除菌、ソーシャルディスタンスです。万全の対策をした上でですが、コロナ自粛で引きこもりになっている中で、市民活動が心の支えになり、メンバーに限るとか条件付きですが、ここには来ていいよという孤立させない場があることが大事だと改めて気付かされました。

[委員長] ありがとうございます。力強い意見とお言葉を頂けて、こういう方がいっぱいいると、白井市も安泰だと。

では、〇〇さん、どうぞ。

[委員] では、社会福祉協議会のコロナの関係の今までの取組について、簡単に報告をさせていただきたいと思います。

まず1点目なのですけれども、コロナで減収になった方々に貸付けを行っております。正式な数字は持っていないのですけれども、令和元年度のときは、いわゆる生活に困っている人への貸付けは6件でした。昨年、令和2年度については、多分200件から300件ぐらいコロナで収入が減った方への貸付けを行っております。実に多くの方々が、コロナの中で生活に困窮しているということが分かりました。

近隣の状況を見ますと、成田空港の近辺、成田市、富里市、山武市といった空港関連の

ところは、うちの倍、もしかしたら3倍ぐらいの人口比率で言うと貸付けを行っています。そういった自治体から比べると、白井市はまだ少ないほうなのですけれども、やはりコロナの関係で、収入が減った方が多くいたので、協議会とすれば、職員を増やして、極力その日のうちに書類を整備して、なるべく早く融資につなげようという努力をしてまいりました。

また、そんなにいっぱい困っている人がいるのであれば、その日の食料にも困っているのではないかとといったようなことを考えまして、今年の2月と今年の10月に、フードサポートという形で、食料を困っている方に直接届ける事業を行いました。2月のときには、大体50世帯ぐらい、10月には、大体70世帯ぐらいの方に食料をお配りしました。

大事なのは、食料を配ることも大事なのですけれども、そういった食料をどうやって集めるかということと、どうしたらいいかという形で職員と共に考えました。もちろん市民の方々ですとか、ライオンズクラブさんですとか、そういった方々から寄附を頂いたのですが、今回、特に10月の寄附を集めるときには、新米が出る時期でして、新米が終わると、当然、古いお米が集まりますので、まず、そのお米を集めるために10月ということにしたのですけれども、実に多くのお米が集まりました。1,000キロを超えました。したがって、1世帯について1人当たり5キロ、5人家族であれば25キロのお米を出すことができました。

それで、そのお米の大半は、市内のお米屋さんから頂きました。実数を覚えていないのですけれども、600キロか700キロぐらい、去年のお米だったのですけれども、頂くことができました。プラス、実はパン屋さんであったり、スーパーであったり、そういった市内の事業所からも、実に多くの寄附を頂くことができました。

今後、コロナというところでは、当然、市民の方々の協力も必要が思うのですけれども、地域の実情に応じて、企業さんですとか、そういったところへの協力を呼びかけることによって、地域全体でそういったコロナの対応をしていければなという形で考えております。

あと最後に、災害のボランティアセンターというものを社会福祉協議会で、仮に大きな災害があったときには立ち上げることとしております。また企業の話になってしまうのですけれども、市内の10団体と災害のボランティア支援に関する協定を結びまして、地震ですとか台風、いつ回ってくるか分からないので、コロナ禍に対応したような形の防災訓練を実施したところです。こちらについても、来年度以降もやっていこうという形で考えておりますが、コロナの中でも、その辺はしっかりやっていきたい、このように考えているところでございます。

以上です。

[委員長] ありがとうございます。困ったときの社協さんというのは頼りになりますよね。

これで全員コメント頂いたかと思えます。〇〇さんとかはいかがですか。お話を聞いてみて。感想でもいいですけども。

[事務局] スタッフの中で、どんなだろうということでみんなから意見を聞きました。その中で出たのが、やってみようかと言い出す人がいると、案外動いているところもあると。

[委員長] そこに実例がお二人いらっしゃいましたけれども。

[事務局] 話があって、ファーストペンギンが動いたという話を市町村の話も含めてキャッチして、それをみんなに知ってもらうということも1つかなという話が出ています。

[委員長] ありがとうございます。

当初、私も、責任の所在みたいな話があったと思うのですけれども、感染拡大した場合の、クラスターが起きてしまった場合の。当初、たしか初期のころに、広島の介護施設でクラスターが起きたときに裁判になったのですよね。施設の責任だと。うちのお婆ちゃんがコロナで死んだのは、施設のせいだからということで民事裁判が起きてしまったのですけれども、結局、和解で取り下げられて、私も全部調べきれていないのですが、その後は多分、コロナの感染に関する裁判って起きていないと思うのです。

ですから、少なくとも法的なレベルでは、それこそ何も対策しないでというのなら分からないのですけれども、十分対策した上でということであれば、そこまで法的な責任、裁判になったらどうしようみたいなことは、現状そこまで心配しなくてもいいのかなという状況になってきていますし。そこは、先ほどおっしゃったように、大分状況としては落ち着いてきたから、そこで何とかもう一回やってみようとか、再開しようという方々を応援していただけるような、例えば補助金ですよね。冒頭、中間報告のあった補助制度をもうちょっと拡充するというか、用途をもうちょっと広げてあげるとか、再開支援みたいな形でもうちょっと枠を広げるとか。何かもう少し工夫の余地はあるだろうなど。

ある意味、言葉は悪いですけども、お金で解決できる。気持ちはなかなか変えるのは難しいですけども、お金に関しては、お金で困っているところには、お金でサポートするという非常に分かりやすい解決策があるので、そこは工夫できる部分は十分工夫していただきたいなと思いました。

2周目でも構わないのですけれども、どなたかお話を聞いていて、こういうことも思ったとか。

[委員] 今、1のところですか。

[委員長] もう1、2合わせてやっていますので。どちらでも構わないです。

[委員] アフターコロナも入っています。

[委員長] アフターコロナも全然あります。

〇〇さん、お願いします。

[委員] 2もありということなので。コロナで、おうちで何か仕事をされているお父さ

んとかが多くて、今までよりも地域に目が行くお父さんが多いのではないかという話をいろいろ聞いたりもして。ちょっと極端なのですけれども、地域に目の行くお父さんと、お父さんがいるがために困っているお母さんとか、いろいろな話は聞くのですけれども、今までみたいに、どっぷり市民活動をやりましょうよではなくて、多分、家でパソコンを打っているお父さんは、Z o o mのことを教えてと言ったら教えてくださりそうだし、ちょこちょこボランティアみたいなのところをお願いできそうな人材が増えたような気がするなと思いました。以上でございます。

〔委員長〕 ○○さん、どうぞ。

〔委員〕 今の○○さんの話の実例ですけれども、子供たちの登校のときに、それぞれシルバーの方ですとかP T Aの方、親御さんが当番でということで横断歩道のところに立ったりとかしているのですが、今、本当に○○さんが言った、まさに桜台地区でそうなのですけれども、Z o o mになったから、朝いるから旗振りするよというお父さんが2人ほどいました。心強いなというふうに思っています。

〔委員長〕 私も自分が予測していたことが当たって非常にうれしいのですけれども。テレワークで、多分、白井ってベッドタウンなので、都内に通勤されていた方が、完全在宅は難しいと思うのですけれども、おっしゃったとおり、週に何回かはテレワークだから旗振りするよとか、ボランティアするよとか、Z o o m教えてあげるよとか。今日欠席ですけれども、黒木さんのところもそうだと思うのですけれども、非常にいろいろな才能とか資格とかを持った方が多分眠っているのですよね。これまでは都内に通っていて、なかなかこの地域還元ができなかった人たちが、多分、様々な社会構造の変化で引っ張り出しやすくなっているはずなので、何かそこにきっかけを与えていただければ、まずは旗振りから始まって、ゆくゆくはリアル訓練の実行委員会のメンバーになってくれるかもしれないし。その仕掛けがこれから必要なのかなという気がしますけれども。

いかがですか、ほかの方。

では、○○さん、どうぞ。

〔委員〕 またまた自分の話をします。楽器演奏のほかに、食育ボランティアという親子サロンとかに訪問する活動をしています。コロナ禍にもかかわらず需要が増えました。そこで感じたことは、外へ向けて何かP Rというか、私たちこういうことをしてます。ほかの市民活動にしてもそうなのですが、広くP Rすることによって、今は結構需要が多いのではないのか。コロナ禍だからというのではなくて、コロナ禍でも対策を取って、そういう外からの人も受け入れているという時期なのかなと思って。ほかの人の活動を聞いていると、全然やれていないという話を聞くのですけれども、私たちの食育ボランティアの活動は反対に、今年になって新規のお客様が何件か増えましたみたいな、そういう状況もありました。

〔委員長〕 本当に私も、コロナ禍で逆に自粛している間に組織基盤を固めようとか、そ

れこそNPO法人化しておこうとか、そういう話もあったりします。

あと、Zoomばかりなので、リアルに会うことの重要性というか、価値が逆に上がっていて。昨日、おととい聞いた話だと、仙台の認知症の方が駄菓子屋をやっているという面白いNPOさんなのですけれども、普段Zoomで会っているお年寄りとリアルで会ったら、あたかもテレビに出ている著名人と会ったかのように、「お婆ちゃん」みたいな感じで、子供たちがすごく喜んで握手を求めたみたいな話があって。

もちろんリアルの価値は絶対になくならないとは思いますが、うまく活用、デジタルとリアルの併用の時代になると思うので、その辺は難しい宿題ですけれども、市役所さんとかセンターさんで何とかとか思ったりしますけれども。非常に面白い時代だなとは思いますが。

ほかの方はいかがでしょうか。あと、お一人かお二人ぐらいいけますが。

では、〇〇さん、どうぞ。

[委員] 今後のことということで、少し大きな話になっちゃうかもしれないのですけれども。〇〇さんが先ほどおっしゃっていたところで、食糧支援が企業から、事業者さんから届いたということは、そこは大きいなというふうに思います。私も食支援活動協力会というところで、配食とか会食、子ども食堂、パントリーとかに関わっているのですけれども、〇〇さんがおっしゃったみたいに、食にすごく関心が高まっています。

子供と相まって、物すごい量の寄付食材が集まっているのですけれども。それを大きな流れで見ると、これまで配食とか会食って補助事業でされていたところもあると思うのですよね。要するに税金を一部使って市民活動、市民活動だけではないのですけれども、市民活動も担い手になっていた。でも、そこは大分少なくなって、お役所側にお金がなくなってきた。そういう流れで見ると、今度は、企業からの物だったりお金だったり、それから知識。先ほどのテレワークもあったりします。その知識という、企業との協働というのも、この先必要なのではないかなと思います。

そういう何かプラットフォーム、出会いの場をつくれるとすると、こういう公のところが信用があるので、そういうところがきっかけになって、企業それから社協さん、それから、市民活動も大きなところと、NPOといっても社会福祉法人とか学校法人とか、そういうところもNPOといえばNPOなので、大きなNPOと、それから小さな活動とが出会えるような、そういう場所が、きっかけができるといいなと思います。

[委員長] ありがとうございます。締めにあつさわしいコメントを頂きまして、ありがとうございました。

ということなので、ぜひ今日出たものをまとめていただいて、今後の施策に生かしていただければなと思います。